

海外で活動する  
医療従事者たち

第 9 回

ベトナムでの活動から  
暮らしの風景からみる、子どもと家族

深谷果林 Fukatani Karin

国立国際医療研究センター国際医療協力局人材開発部研修課／看護師

みなさんは、ベトナムに行かれたことはありますか？ どのようなイメージをもっているのでしょうか？ 私がイメージとしてもっていたことのひとつが、「漢字に縁がある国」です。それは、約20年ほど前、ベトナム語を学ぶ友人から、「ベトナムの言葉は、漢字が音になってるんやで。例えば、「ありがとう」は、『感恩』を音にした『Cám ơn(カムオン)』。わかりやすいやろ？」と、とても簡潔な説明を受けたことでした。もう一つのイメージは、アオザイを着た女性たちが三角形の帽子をかぶり、天秤のようなもので物を運んでいる、どこかゆったりとした国、というものでした。そのようなイメージを抱き、国際保健医療協力研修<sup>註</sup>に参加した2015年の夏、ハノイの空港に降り立った瞬間、独特の蒸し暑さを感じながら、「あっ、これが東南アジア、ベトナムかあ」と思ったのを今でも鮮明に覚えています。そして、けたたましくクラクションを鳴らしながら、縦横無尽に走るバイクの多さに驚きました。冒頭で話したゆったりしたイメージは、一瞬にして「とてもスピードのある勢いのある国」に変わったのです(写真1)。

それから3年後、2018～2019年にかけて、JICA プロ

ジェクトの専門家としてベトナムで働きました。プロジェクト活動は、新卒看護師のための臨床研修制度の強化です。日々、ベトナムの看護や看護教育の現状に対して、制度を強化することで看護師教育の発展につながる活動とは何かを考え、視察やディスカッションを通して協議することが中心でした。日本とベトナムでは看護師の業務範囲が異なります。その異なりの背景には何があるのか？と考えたとき、毎日の生活のなかでベトナムの文化に触れることで、少しずつみえてきたものがありました。それは、家族の絆、家族や仲間とのつながり、近所づきあいの強さでした。実際に生活するなかで、暮らしの視点でこのようなことを知ることは、私にとってとても貴重なものでした。そのなかで出会ったのは、多くの子どもたちです(写真2)。

例えば、町中ではよく、おばあちゃんが赤ちゃんを抱っこして歩きながら、スプーンで食べ物を食べさせている姿をよく見かけます。ベトナムの若い世代は、夫婦共働きが基本です。そのため日中は、祖父母や親戚、知人などから育児のサポートを受けることも多いようです。

ベトナムの主産業は農業であり、農業大国です。米を中心とした豊かな食文化は、多種多様な野菜や、季節ごとに楽しむことのできる果物の種類の多さからもよくわかりま

註：国際医療協力局主催の研修



写真1 親子でバイクに乗る姿はよく見かける光景



写真2 夜8時ごろ、歩行者天国として開放された路上で、遊具で遊ぶ子どもたち



写真3 朝、フォーのお店で出会った男の子

父親が取り分けてくれた器をじょうずに持ちながら、食べています

す。ベトナムでの食事といえば有名なフォー。ベトナムでは主に朝食としていただきます。フォーの店では、朝早くから子どもを連れた親の姿を見かけることもよくありました(写真3)。

ベトナムの赤ちゃんが外出するときには、日本ではみられない光景がありました。それは、赤ちゃんの眉間に赤い点があったことです(写真4)。母親のズエンさん(写真5)に尋ねると、このように教えてくれました。「昔の人は、赤ちゃんが外出する際は、悪いことを外に出し、悪魔が来ないように黒い点(鍋墨)をつけますが、帰宅時にはよいことを家に入れたいため、赤い点をつけるといわれました。黒い点や赤い点だけでなく、魔除けのような意味で、ナイフとニンニクも持参します」と。最近では、外出時も帰宅



写真4 もうすぐ生後3カ月を迎える赤ちゃん

眉間には口紅でつけた赤い点があります

時も、ナイフとニンニクを持参し、赤い点だけをつける人が多くなっているそうです。その理由は、「昔、ベトナム人は薪で調理をしていたので、鍋墨を使って黒い点をつけることができましたが、今はほとんどがガスと電気調理するため、鍋墨がなく、口紅だけを使って赤い点しかつけていないのではないかと思いますよ」とのことでした。

子どもの成長を祝う誕生日には、家族や親戚で盛大にお祝いをします(写真6)。私がお邪魔した家庭では、お手製のケーキで祝う姿がありました。誕生日を迎える子どもが大好きな、ジャックフルーツで飾り付けられたケーキにろ



写真5 ズエンさんに抱っこされる赤ちゃん

蚊帳のような役目を果たす布地で、赤ちゃんを保護しています



写真7 ベトナム北西部のサパにて

トレッキングのサポートをしてくれた子どもたち

うそくを立て、お祝いです。親は、愛称をつけて子どもを呼ぶことが多いようで、例えば、「ケム」という、アイスクリームを意味する愛称をもつ子どももいました。今思い起こせば、ケムちゃんのお母さんは、スイーツが大好きな素敵な女性でした。

ここまで紹介した子どもたちとの出会いは、首都ハノイでした。休日に、ベトナム北西部にあるサパという町を訪れたことがあります。そこでは、トレッキングをしました。ガイドをしてくれた現地の人の中に子どもの姿がありました(写真7)。慣れない荒い道を歩く、ハノイから来た私たちをサポートしてくれたのです。大人よりも小さな身体なのに、優れた身体能力で快適な道を探しながら先導し



写真6 従姉妹たちや親戚皆で、お手製のケーキで祝う誕生日



写真8 病院関係者で行われるレクリエーション大会

てくれました。彼女たちは、家業としてトレッキングのサポートを手伝っているようでした。都会であるハノイに住む子どもたちとは異なる姿があり、地方に住む子どもたちには、家業を手伝いながらの暮らしがあるのかもしれない、と感じた出来事です。

いま、ベトナムは著しい経済成長を遂げています。日本も昭和30~40年代にかけて、同じような時代を経験しました。スピードに満ちた勢いのある国、この印象をもったまま私は日本に戻りました。そして、家族や近い人とのつながりを大切にする国、という新しい印象も一緒に(写真8)。それは、日本が少し失いつつある部分かもしれない、と感じています。国が発展し時代が変わっても、そこは変わらないでほしいな、と願うばかりです。

最後に、ベトナムでの生活を支えてくれたズエンさん、ハーさんご家族をはじめ、多くのベトナムの皆さんに感謝の意を表します。ありがとうございました。Cám ơn!